
タブーの島

A.A

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

タブーの島

【Nコード】

N2400M

【作者名】

A・A

【あらすじ】

時計の針は十二時を指す。

空は真つ暗闇に包まれている。

村、廃病院、時計塔、闇に包まれた森…。

それらが揃うこの島で今、恐怖の悲鳴が聞こえる…。

そう…。

ここは人が踏み込んではいけない…。

禁断タブーの島！

音

ドーン…。

鈍く重い音が辺りに響き渡った。

……俺は何をしていたんだ？たしか友達と遊んでいてその帰り道に誰かに襲われて…。

それ以上は思い出せない。

辺りを見渡して見た。

粗末な二段ベット一つと出入りのための扉が一つ。

畳み六枚分くらいの小さな部屋みたいだ。

しかし、素材は畳みではなく、鉄のようだ。
冷たい…。

良く見ると壁に丸い窓が一つ付いている。

窓から外を覗く。

暗くて見にくい…。

よくはわからないが地面が揺れている…。
たぶん海だろう。

その時、ドンドンと扉を叩く音が響いた。

窓を覗くの止め、後にある扉の方を振り向く。

ドンドンドンドン…。

叩く音が大きくなっていく。

何なんだ!?

ここはどこなんだ?

どうして俺はここにいるんだ?

いったい何が起きているんだ?

恐怖が心の底から込み上げてくる。

ドンドンドンドンドンドンドンドンドンドン…ギィ…。

扉が少し開いた。

開いた扉の隙間の間にポーカンと何かが浮かんだ。

白色…、中心に黒い点…。

人の…目…?

ギィィィ…。

扉が完全に開く。

俺は自分でも驚くぐらい大きな声で悲鳴を上げた。

その悲鳴が辺りに反射し、大きくこだました。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2400m/>

タブーの島

2010年10月9日04時01分発行